



第38回
西日本菊花大会閉幕
内閣総理大臣賞に鳥巢敬次(八女市)

西日本最大の菊花の祭典、西日本菊花大会(主催 宗像大社菊花会(千々和正信会長)・宗像観光協会(吉武邦彦会長)、後援 福岡県他)が、先月二十三日盛大裡に終了した。

この菊の祭典は昭和の大造営を奉祝し、昭和四十六年に第一回大会が開催され、今年で三十八回目となる。境内には九州各県、山口の菊愛好家約二百人から、丹精込めて育てられた菊約三千鉢が出品され、量ともに西日本最大級である。

開催にあたっては、宗像市商工会青年部、宗像大社菊花会(社)宗像青年会議所、運送関係協賛会社の御奉仕をいただき展示された。

十月三十日、福岡県農業試験場園芸研究所 花き部 中村新一部長を審査長として審査が行われ、大輪・盆栽・懸崖・特作の四部門 各々非常に厳しい出品基準、審査基準により厳正に審査された。

本年は夏の厳しい暑さと少ない雨など菊作りには大変難しい気象条件が重なったが、幸い台風の影響を受けることなく、十一月一日には多くの菊花が満開に咲き誇ることとなり、上位三



アメリカ大手金融会社の経営破綻に端を発する、世界的規模の金融恐慌の影響を受け、我が国でも派遣労働者の削減、就職内定者の内定取り消しなど、雇用環境は厳しさを増している。反面、零細企業や看護士、介護士などでは人手不足で、海外からの労働力を当てにしているのも現実である。海上保安官の活躍をテーマにしたドラマ「海猿」の影響が、同職の志願が急増したらしい。但し一過性とのことである。全てとは言わないが現代の若者の風潮なのか、憧れだけの職業選択なのか。憧れや職種で生涯の人生を決定し挫折する。その一因に高学歴、高収入こそ人生の最良の道であると、叱咤激励してきた親の責任は大きいのでは? 今回の不況はマネーゲームに起因する。であるならばそんな幻想に踊らされることなく、世に必要とされる「物」を創造する。つまり「物づくり」に心血を注ぎ、喜びを感じる、そこに自分の生きがいを見つけることも大切なのではないだろうか。自らが生涯を通しての天職とは何かしっかりと考え、最良の選択をしていただきたいものである。(佐)

12月祭事暦

毎月1-15日 月次祭	14日
午前10時 高宮祭	午前6時~ 古式祭
第二宮・第三宮祭	午前6時30分~ 御座
引き続き 宗像護国神社	午前10時~ 鎮火祭
月命日祭(1日)	19日 松尾神社祭
巡 拜(15日)	午前11時~
午前11時~ 総社祭	23日 天長祭
浦安舞奉奏(1日)	午前11時~
豊栄舞奉奏(15日)	31日
	午後3時~年越しの大祓式
	引き続き除夜祭

神具・装束・授与品

井筒

兼東店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目F-20 電話(0940)32-2567



位に内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞、文部科学大臣賞が授与された。
また本年は天皇陛下ご即位二十年ということで記念花壇を特別に設け、歴代の大臣賞受賞の方々などに大輪・盆栽など様々な菊を奉納して頂き、神門前に見事な菊花が並びこの佳節をお祝い申し上げます。



十一月十六日には神島宮司、吉武観光協会会長、千々和宗像大社菊花会会長、中村新一審査長ら来賓と、愛好家約百名が出席し、宗像市神湊の「ゆうゆうぶらざ」で表彰式が行われ、菊の講評や菊作りの労いがなされた。
期間中境内では例年行っている、菊みくじ、菊苗売場、観光協会による「いっぶく茶屋」の設置に加え、今年「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産暫定リスト記載に伴い専用ブースを設け、沖ノ島写真な



菊花展期間中、ガイドをしていたいた観光ボランティアの皆様

どが掲示され、世界遺産登録実施に向けての推進活動も行われた。
また、本年も観光ボランティアの皆様が協力いただき実施された、観菊者へのガイドも好評であった。
毎年この季節になると問い合わせを受けることも多く、観菊に訪れる人々で境内は大変な賑わいをみせた。
この菊花展開催にあたり、ハウスの設営、組立、菊花の運搬、賞の協賛、また広報花壇の設置等にご協力頂きました多くの奉仕者・協賛者の皆様へ誌面を借り心より御礼を申し上げます。

沖津宮・中津宮秋季大祭齋行

各賞、受賞者は下記の通り(敬称略)

- 内閣総理大臣賞 次美治
- 農林水産大臣賞 敬壽
- 文部科学大臣賞 野地
- 総務大臣賞 橋中
- 法務大臣賞 田宮
- 財務大臣賞 石田
- 厚生大臣賞 中末
- 経産大臣賞 重光
- 国土大臣賞 倉田
- 環境大臣賞 三石
- 防衛大臣賞 山富
- 内閣府大臣賞 宮原
- 官庁議員賞 山崎
- 衆議院議員賞 渡辺
- 参議院議員賞 眞能
- 宗像大社司賞 拓
- 九州農政局長賞 紀
- 福岡県知事賞 順
- 佐賀県知事賞 義
- 長崎県知事賞 実
- 熊本県知事賞 美
- 大分県知事賞 光

十月十三日恒例の沖津宮・中津宮秋季大祭が、秋晴れのもと筑前大島の中津宮で斎行された。
秋の大祭では古くから島内各地区より演芸の奉納もあり、毎年盛り上がりを見せている。大祭前日には沖中両宮奉賛会(古賀理会長)、翼賛会(福岡延男会長)のご奉仕により立派な舞台も完成。夕刻より沖・中両宮の宵宮祭が斎行され、参列者は翌日の大祭を待ち望んだ。
大祭当日は好天に恵まれ、沖津宮遙拝所での沖津宮大祭、島の最高峰に鎮座する御嶽神社祭、宮崎地区での厳島神社祭をそれぞれ斎行。
その後、午前十一時に中津宮秋季大祭が斎行され、神島宮司

を齋主に氏子奉幣使として大島谷区の遠藤茂春氏が奉仕し厳粛に祭典が行われた。
祭典後午後一時半より、大勢の観客が境内を埋め尽くす中、島内の皆様による奉納演芸大会を開催。各地区より舞踊や演芸、カラオケなどが約二時間に亘り披露された。
前日の島民運動会、本日の大祭と二日間に亘る熱気と余韻に浸りながら、今年の沖・中両宮の秋季大祭を無事に終了した。



※以下、受賞者につきましては、紙面の都合上割愛させていただきます。

今上陛下、御在位二十年奉祝祭

本年、畏くも天皇陛下にお
かせられましては、御即位二
十年の慶賀の年をお迎えにな
り、全国各地で奉祝祭典や記
念行事が開催されている。

当大社でも菊花香る十一月
一日、天皇陛下御即位二十年
奉祝祭が責任役員 氏子会 地
元総代 氏子青年会 菊花展関
係者等約百名参列のもと盛大
に斎行された。



午前十一時、神島宮司以下
神職、参列者は齋館正面玄關
に列立し、本殿へ参進した。
先ず、宮司が佳節を言祝ぎ、
平成の御代の弥栄を祈念する
祝詞が奏上され、次に当大社
巫女による浦安舞が奉納され
た。宮司、参列者が玉串拝礼
を行い祭典は滞り無く終了。
引き続き清明殿にて記念式
典が催され、氏子会安部会長

に併せて皇居を遥拝、
次に国歌斉唱、引き続
き神島宮司、安部会長
が夫々御祝の挨拶を
行い、最後に皇室の繁
栄祈念し、桑野責任役
員発声により聖寿万
歳を行った。
当日は第三十八回
西日本菊花展初日と
言う事もあり、境内は
多くの参拝者で賑わっ
た。又、今年はこの慶
事を祝し、神門前には
特別菊花壇が当大社
菊花会有志等により
奉納された。

表千家家元奉仕「献茶祭」斎行

まだ暑さを残す十月十七
日、当大社秋の恒例神事献茶
祭が、第十四代表千家家元而
妙斎千宗左宗匠直々の奉仕に
より厳粛に斎行された。

この献茶祭は、昭和二十七
年当時の宗像大社復興期成
会々長出光佐三氏の御尽力に
より実現し、以来毎年出光興
産(株)奉納により行われ、今回
で四十五回目を迎える。



神門前に設置された奉祝特別菊花壇

員を始め茶道に勤しむ人々
が参集、境内は和服姿の女性達
で華やかな雰囲気におま
れた。

定刻十一時に一鼓を合図に
奉仕神職、第十四代表千家家
元以下介添の家元関係者、出
光興産株式会社名誉会長出光
昭介氏、同門会関係者が祓舎
にて修祓を受け本殿へ参進、
所定の座に着座し祭典開始。



宗匠に授けられる出光名譽会長



執り行われた。千宗左宗匠は
拜殿に設けられた風炉前に端
座し、「動と静」とが見事に調
和した、淀みない清らかな御
点前を披露され、参列者は固
唾を呑み、真剣な眼差しでそ
の一挙手一投足を見守った。
濃茶・薄茶の二服が、雅楽の
調べが流れる中、神職の手に
より御神前に奉納された。
祭典後、参列者は儀式殿に
設けられた「出光副席」、齋館
に設けられた「同門会副席」へ
参席、茶席に掲げられた掛
軸・茶道具の逸品を觀賞しな
がら、お茶戴き「侘・寂」の境
地に浸り、至福の一時を楽し
んだ。

沖ノ島の鳥たち

「オオミズナギドリ」

武下雅文 (タケシタ マサフミ)
 日本鳥学会会員、満76歳。昭和7年(1932)1月生れ。北九州市在住。平成2年(1990)読売新聞西部本社を定年退職。昭和41年(1966)より野鳥に興味をもち、各種鳥類調査や離島調査を実施している。日本鳥学会、日本鳥類標識協会、日本鳥類保護連盟などの会員。

ミズナギドリ科のオオミズナギドリは沖ノ島を代表する、外洋性の海鳥です。全長四十八センチ、翼を拡げる一二〇センチになり、日本での主な繁殖地は岩手県

三貫島、伊豆諸島の御蔵島、京都府冠島と沖ノ島で、何れの島でも研究者により、長年その生態調査が実施されています。私が初めて沖ノ島に入ったのは

一九七九年八月六日、北九州野鳥の会研究部が、日本野鳥の会本部の三人を招いての調査への参加

でした。以降個人的に鳥類調査を実施してきました。一九八六年からは国設沖ノ島鳥獣保護区設定の効果調査を福岡県

が実施し、二〇〇〇年から環境省に移行されましたが、その調査にもほぼ毎年参加しました。この調査では沖ノ島でのオオミズナギドリの生息数を把握するため、無作為に一〇センチ×一〇センチの方形区を設定し、利用している巣穴数を調べました。巣穴の入り口に土や葉が溜まっているものは旧巣穴として計算外としました。その結果オオミズナギドリの生息数は十二万〜十八万羽と推定しました。

日没後、薄暗くなると鳴きながら三々五々帰島してきます。海上へは見事に着水できるのに、原生林の林床には上手く着地できません。木にぶつかってそのままトーンと落ちて着地です。そして三時過ぎには飛び立ちが始まります。参道や林床からは直接飛び立てないので、斜めに延びたタブノキなどを這い上がって、そのまま落ちるように羽ばたいて飛び立ちます。また黄金谷では大きな岩をジャンプ台にしています。下では順番待ちの群れが賑やかです。四時三〇分頃には飛び立ちが終了します。このように木に登る鳥として有名ですが、例外として鹿児島県草垣群島では高木が自生していないので、傾斜面のハチジョウスキを敷き詰めた、スキーのジャンプ台のようなスロープを滑りながら飛び立ちます。

私は一九八一年に環境省の鳥類標識調査員の資格を取りましたので、一九



沖ノ島近海を飛ぶオオミズナギドリ。宗像市の市鳥です。

一九八六年からは国設沖ノ島鳥獣保護区設定の効果調査を福岡県

が実施し、二〇〇〇年から環境省に移行されましたが、その調査にもほぼ毎年参加しました。この調査では沖ノ島でのオオミズナギドリの生息数を把握するため、無作為に一〇センチ×一〇センチの方形区を設定し、利用している巣穴数を調べました。巣穴の入り口に土や葉が溜まっているものは旧巣穴として計算外としました。その結果オオミズナギドリの生息数は十二万〜十八万羽と推定しました。

私は一九八一年に環境省の鳥類標識調査員の資格を取りましたので、一九

八二年からはオオミズナギドリの標識調査も実施しています。夜間に手で捕らえて、環境省のナンバー入りの金属リングを足に装着します。沖津宮参道入り口から沖津宮迄と、黄金谷入り口周辺を調査地としています。沖津宮近く鉄条網の張つてある場所は、立ち入り禁止と考え中には入りません。この鉄条網はオオミズナギドリの激突も考えられるので、ロープにでも変更していただきたいです。参道や



地上のオオミズナギドリ



標識調査中の研究者





飛び立つためタブノキに登る

林床に座っているものは、昔は簡単に素手で捕まえられたのですが、最近は接近すると逃げ出すのでタモ網で捕獲しています。他の調査員が灯台付近など別のポイントで実施すると簡単に素手で捕獲できるそうです。このことは毎年、毎日同じ場所を利用してあるので、私のポイントのものは危険を学習しているようです。抱卵への支障を考慮して、巣穴の中のものは一切捕獲しません。一度だけ巣穴の一羽にリングを付けました。位置が分かるように巣穴にマーキングして、昼間調べたところ巣穴は空でした。その日の夜間再び取り出してみると同じリング付きの個体でした。広

い島でよく自分の巣が分かるものと感心しました。

本年六月迄にオオミズナギドリ三、八二九羽を標識放鳥しました。そして一〇羽強となる四三二羽のリング付き個体を再捕獲しました。古い記録としては二〇〇四年に初めて一九八二年に標識した個体を二羽、二〇〇五年には一羽を再捕獲しました。成鳥への標識でしたので、年齢は二十四歳以上となります。沖ノ島以外での長期経過後の回収としては三十二年の記録があります。

沖ノ島で放鳥した個体が長崎県対馬沖、山口県萩市沖、角島、島根県湖陵町で回収された例があります。これらは渡りとは考えにくいのですが、鹿児島県名瀬市(二月)、フィリピンオロラ州(三月)での回収例は渡りの個体と考えられます。沖ノ島も含め他の繁殖地からの回収例はほとんどありません。

沖ノ島へは三月中旬渡来し、九月中旬には未だ幼羽の残った上手く飛べない幼鳥を残して渡去します。

個人的調査に入島許可をいただいた宗像大社様にお礼申し上げます。

第35回 宗像本因坊戦



11月16日(日)宗像本因坊戦(五・六段者)、宗像大社奉納囲碁大会(初段~五段)が当大社齋館・清明殿で、約二百人が参加し開催された。

囲碁大会は初段~五段までを6人1組に別け、各組ごとに優勝者を決めた。今年は30組200人が参加し、熱戦を繰り広げた。

宗像本因坊戦は五、六段の高段者で行われ、文字通りその年の実力ナンバーワンを決める大会で、盤側に集まった観戦者は固唾を飲んで勝負の行方を見守った。熱戦の末、今年の宗像本因坊には宗像市の石田徳房氏に輝いた。

◆成績は次の通り	宗像本因坊	石田 徳房 (宗像市)
	準 優 勝	西野 照章 (福津市)
	三 位	浅見 忠雄 (福津市)

第39回 秋季奉納盆栽展



第39回秋季奉納盆栽展が、宗像大社奉納盆栽会(現会長=石松重敏氏)により、11月13日~17日の5日間にわたり本殿西側の境内で開催された。

当日午前9時より出品盆栽を搬入。優美な黒松、五葉松、紅葉などの多くの盆栽が境内に並んだ。

この盆栽展は、毎年春と秋(年2回)に開催され、神郡宗像の盆栽愛好家が、宗像大社の御神徳の発揚、会員相互の親睦、日本の伝統と格調高き美を遺憾なく表現出来る盆栽の普及、技術の研鑽に励むことを目的に今日に至る。

開催中は生憎の雨となるも、濡れた盆栽も日の光を受ける事により瑞々しく青々と映え、参拝者に心地よい静寂な一時を与えた。

第三十三回 秋季奉納 吟詠大会



十一月三日明治祭齋行後、恒例の詩歌朗詠清香吟社による奉納吟詠大会が開催された。

本殿で宮崎透山氏による献吟、参加者等による吟道合吟が奉納された後、会場を清明殿に移し永年斯道の興隆に寄与された杉村平山氏、伊藤喜月氏、日野諒月氏に当大社から表彰状と記念品が贈られた。神島宮司による挨拶の後、会員による吟詠が次々と披露され、終日境内には美声が響いた。

◆ 厄年年齢表 ◆

生まれ年	厄	生まれ年	厄	生まれ年	厄
大正 8 年	八方塞	昭和35年	暗剣殺	昭和59年	後厄 (男)
大正13年	暗剣殺	昭和39年	八方塞	昭和60年	大厄 (男)
昭和 3 年	八方塞	昭和42年	後厄 (男)	昭和61年	前厄 (男)
昭和 8 年	暗剣殺	昭和43年	大厄 (男)	昭和62年	暗剣殺
昭和12年	八方塞	昭和44年	前厄 (男) 暗剣殺	平成 2 年	後厄 (女)
昭和17年	暗剣殺	昭和47年	後厄 (女)	平成 3 年	大厄 (女)・八方塞
昭和21年	八方塞	昭和48年	大厄 (女)・八方塞	平成 4 年	前厄 (女)
昭和23年	後厄 (男)	昭和49年	前厄 (女)	平成 8 年	暗剣殺
昭和24年	大厄 (男)	昭和51年	後厄 (女)	平成12年	八方塞
昭和25年	前厄 (男)	昭和52年	大厄 (女)	平成17年	暗剣殺
昭和26年	暗剣殺	昭和53年	前厄 (女)・暗剣殺		
昭和30年	八方塞	昭和57年	八方塞		

厄年とは

厄年とは人生の節目であるとともに、一生のうちで災い・災難といった「厄」にあう恐れが多いため、忌み慎まねばならないという年廻りで、我々日本人の永年の生活習慣から発生した我が国独自の慣習です。

特に男性の42歳、女性の33歳は「大厄(たいやく)」とされ、その前後の年も「前厄・後厄」といって、最も慎み忌むべき年とされています。

厄年を迎えると、我々の祖先は神社に足を運び、お祓いをうけ避けてきました。数え年で、本年が厄年になる方、お祓いをうけこの一年を清々しい気持ちでお過ごしください。

暗 剣 殺

＝厄年とは異なるが、大凶とされる年。突発的なことが起きたり、身の周りからの害を受けやすいとされる年。

八 方 塞 が り

＝物事を始めようとしても良い結果が生まれにくい年。転居、結婚、新しく事をはじめる方は要注意。



大社守・大社巾着守の御紹介

今日では、交通安全、厄除、安産、病氣平癒、学業成就等々様々な願意ごとに御守がござりますが、この御守は「諸願成就」御守です。かつては、緑と赤の二色のみでしたが、もつと多くの皆様に、宗像大神様の御神徳をお受けいただきたく思い、形と色に創意工夫を施しました。

大社守は、身につけやすくコンパクトな形とし、色も白、青、赤、黄、ピンク、黒の六色展開と幅広い年齢層の方々に受け入れていただけるようにしております。

大社巾着守は、匂い袋を思わせる巾着型で、白、黄、赤、青のオーソドックスな四色展開となっております。

「道主貴(みちぬしのむち)」と称され、あらゆる道を司る宗像大神様の御神徳をお受けただければと存じます。

本殿・祈願殿授与所で頒布しております。

古式祭の御案内

800年の伝統をもつ、宗像地方の特殊神事「古式祭」が左記日程で執り行われます。振るって御参列下さい。

- 日時 12月14日(日)
- 祭典 午前6時～
- 祭場 宗像大社 本殿
- 御座 午前6時30分～一番座
(一番座=50名ずつ、五番座まで)
- 会場 宗像大社 清明殿
- 御座料 1人=1,000円
※御座券は当日午前6時～販売致します。
(例年午前5時30分位から多くの方が並び始めます。)



除夜祭・大祓神事の御案内

年の瀬を迎え、皆様には御多忙の御事と拝察申し上げます。今年一年を締め括る「大祓神事」「除夜祭」が近付いて参りました。

この大祓神事は「年越の大祓」と称し、夏(7月31日)に行われた「夏越の大祓」以後半年間の『罪』・『穢れ』を祓い清め、清々しい心身で新年を迎えていただくための神事でございます。

大祓神事に引き続き行われる除夜祭は、この一年に当大社で行われてきた何百回という祭典の中でも最後の祭典です。この祭典が終ると、しばしの静寂を経て元旦を迎えます。

- 日時 12月31日(水) 午後3時～
- 場所 神門前

尚、遠方または参列出来ない方は、大祓神事当日までに「人形」(男・白・女・赤)に息を吹きかけ、御家族の名前・住所・年齢を「車型」にはナンバーを御記入の上、当大社まで御返送ください。



交通安全 宗像大社 初詣

交通規制のお知らせ

期間

- 平成20年12月31日(水)
午後9時から
平成21年1月1日(木)
午後9時まで
 - 平成21年1月2日(金)～1月5日(月)
午前9時から午後7時まで
- ※交通状況により、規制時間を変更することがあります。

凡例

	宗像大社順路
	一方通行
	歩行者用道路
	車両進入禁止
	交通信号機
	駐車場



第五六八回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切

福津市 若木台

野間 精一

稲刈機を運転する夫を見守りて田園の畦にその妻が立つ
まだ馴れない手付きの夫だろわか、二句は「うごかす
夫を」とすると定型にもなるし、不安気も出るのは。

福津市 中央

池浦千鶴子

買物のメモ紙忘れ店内をいくども廻る老ひたる主婦は
老いたものの悲しい行動、結句は他人でなく「老いた
り吾は」とした方が、老いに対する悲しみがより深く
出る。「老ひ」は新カナでも旧カナでも「老い」。

うきは市 浮羽町

向 則正

潮の香の下関唐戸市場にき味嗜味うまきふぐ汁を喰ふ
唐戸と海豚は日本の風物詩である。上句は「潮匂ふ唐
戸市場の朝をきて」が、いい。

北九州市 八幡西区

吉田ウト子

赤ピーマン吾に氣をくるる彩なれば見据えて今朝の仕度にかかる。
ラッキーカラーの赤に励まされる吉田さんの一日が始まるのである。
福岡市 南区 井田有久衣

北九州市 戸畑区

田中ハツセ

携帯に写る嬰兒十五日両手は休まず大きなあくび
驚きとよるこびのひととき、一、三句は「写れるやや
は十五日目」、結句は「大きくあくび」がいい。

宗像市 田久

巻 桔梗

検しつ検しつ編みし詠草集にミスふたつありミスふたつあり
一、二句と四、五句の言葉の繰り返しに、大社短歌大会の事務局
長としての並々ならぬ苦勞と責任感がこもっている一首、かく
して大会は無事に行はれるのである。感謝あるのみである。

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子

境内にすれ違ひさま微笑める袴姿の巫女の親しも
巫女さんの微笑に心なごんだ作者。二句は「すれ違ふ
とき」がいいのでは。

宗像市 田野 森 甲子

若き日に作りし山畑いまは蕎麦コスモス咲きて風に戦げり
時代の変遷と往時の苦勞を私達も作者と同じく味わ
うことの出来る一首。

宗像市 日の里 大和美由紀

羽音してふいに飛び来し熊ん蜂息を殺してじつと動かす
熊ん蜂は恐ろしい蜂である。三句は「熊ん蜂に」とにを
入れないと、息を殺しているのは熊ん蜂のようである。

宗像市 田久 井上 光

蜜柑狩る木下に野うさぎ跳びはねてわれ驚かす小春日の丘
平和なひととき、「蜜柑狩る小春日の丘野うさぎの跳
びはねいでてわれ驚かす」として鑑賞した。

福岡市 南区 加野シノブ

母に手を引かれ行く児よ可愛らし笑みて見ている我の手をとる
オシャマな幼児のさまが詠われている。天野さんと
同じく、ゆきずりに得た幸福感である。

宗像市 自由ヶ丘 一木 照代

夫逝きて一人夕餉の淋しさよ窓辺に光る星一つのみ
伴侶に先立たれた寂しさである。一人、一つの重複を
避けるための結句は「窓辺に遠く光る星あり」がいい。

宗像市 光岡 佐藤 純一

汝は吾れの幼な友達われに言う今日の給食カレーが頬に
一首ごたごたしている。「給食のカレーが頬に付
きると幼な友達われに言ふなり」としたい。歌のリ
ズムは語順を正しくすることからはじまる。

選者詠

深まりし妻の病よ街に住む娘にスベアキーを渡さむ
宵張りの身をもて余しるるならむさあれ病院の妻よおやすみ
不意にして目覚しは鳴る入院し妻のをらざる闇の部屋より



第五四三回 俳句作品集

宗像市 平井 占部 詩子

風が出て雁来紅は炎の阿修羅

宗像市 東郷 田中 憲象

サーカスの来ていた広場森澄めり

宗像市 田久 巻 桔梗

後の月仰ぎ肩こり和ぐる

宗像市 光岡 白土 凌一

木守柿一つ残して秋は去る

宗像市 神湊 永島 紀子

円墳のほんにまん丸刈田風

宗像市 光岡 佐藤 純一

きゅうり食い焼酎くらい夜ふけまで

編集後記

師走です。世の中も慌ただしさを増していきますが、神社では既に迎春準備が始まっています。そして、日本人が家族の誕生日以上に欠かすことのない年中行事の第一位「初詣」がやってきます▼一年で最も多くの皆様が神社に訪れるこの時期に備え、内外部問わず可能なこと全てを試してみようという挑戦が一年間なされてきました▼まだ全て完遂という訳にはいかず、最後の生みの苦しみが待っておりますが、出来る限りのことをし皆様をお迎えしたいと思います。(塚)

宗像大社社務所 発行所 宗像

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延
制作 セネラルアサヒ
印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共1,000円